

令和7年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 (みつめなおして、よりよく①) 開催報告

1 趣旨

- ・県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。
- ・県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。

2 主催

滋賀県教育委員会

3 対象

- ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者
- ・各市町生涯学習・社会教育主管課担当者
- ・各市町学校教育主管課担当者
- ・滋賀県内教職員
(地域連携担当者)
- ・地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員
- ・CSアドバイザー
- ・社会教育士 等

4 日時

令和7年4月25日(金) 13:30 ~ 16:30

5 会場

滋賀県庁東館7階大会議室(大津市京町四丁目1番1号)

※対面での参加または、オンライン参加

6 内容

○開会行事

- ・事業説明(主な事業説明は事前に動画配信)
- ・CS アドバイザー紹介

○講演

- ・演題:「学びをつなぐ」地域と学校の連携・協働をめざして
- ・講師:新谷 さゆり 氏
(白川村教育委員会事務局 事務局長 教育研究所室長、元文部科学省CSマイスター)

○グループ別協議

- ・グループA 【対象者:教職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、社会教育士、プラン推進員等】
- ・グループB 【対象者:各市町プラン事業担当者、県CSアドバイザー】

7 参加者数

83名(来場40名、オンライン43名)

8 講演の概要

白川村の地域と学校の連携・協働に関する御講演をいただいた。本講演では、学校、家庭、地域の「つながり」を重視する白川村の先進的な取組について、その目指す方向性、具体的な活動、そしてそれらがもたらす成果を体系的にお話しいただいた。

①連携・協働の目的と目指す「担い手像」

白川村がこの連携・協働を進める背景には、人口減少や予測困難な社会情勢への対応がある。子どもたちには変化の激しい社会を生き抜く「生きる力」を育み、地域住民には自ら地域を創造していく「主体的な意識」への転換を促すことを目的としている。講演では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動は「目的」そのものではなく、あくまで「将来の担い手(創り手)育て」という共通の願いを実現するための「手立て」である点が強調された。

白川村が目指す「担い手像」は、単に村に帰ってくる子どもではない。「ふるさとへの熱い想いを胸に村に貢献できる“ひと”」すなわち「創り手」の育成である。この「創り手」は、15歳までの「未来につながる経験の蓄積」(感じる、挑戦、自信など)を通じて育まれると説明された。特に、「自己を鍛え自己を伸ばす(挑戦)」と「人とのつながり(相手意識を高める)」という資質・能力の育成に重点が置かれている。



②地域と子どもの変化

地域全体の意識変化としては、既存の活動に「何のため?(目的)」という問いを加える「ひと工夫」によって、住民の「無意識を意識化」し、当事者意識を高める取組が進められている。「子どもと大人が一緒に関わる地域」を目指し、「登校ふれあい週間」や「ちよいボラ」といった活動が展開されており、大人が地域活動に真剣に取り組む姿を子どもたちに見せることの重要性が強調された。これにより、地域住民からは「地域の人が変わった!」という実感が生まれている。



子どもたちの変化については、「村民学」(白川びと学、ふるさと学習)や地域活動への参加を通じて、村内外の多様な大人の生き方や村について深く学び、将来について深く考察する機会を得ている。これにより、複数の可能性に安心感を抱き、自信を育んでいる。地域活動で活躍の場を与えられたり、大人の姿を間近に見たりすることで、「わたしたちも地域の一員なんだ」という当事者意識が芽生えていることが報告された。卒業生からも、村への貢献を願う声や、地域での経験が自身の成長と自信につながったという声が聞かれる。

これらの連携・協働の結果、白川村では子どもたちの成長と大人の意識変化が相互に影響し合い、人と人とのつながりが未来へと続く強固な仕組みが構築されていることが示された。

本講演で示された白川村の取組は、地域と学校が一体となって未来を担う人材を育むための、実践的かつ示唆に富むモデルであり、参加者にとって、今後の事業推進のための自信も高めていただくことができた。

9 グループ別協議の概要

(1)グループ協議 A

- ・私にとって「学びをつなぐ」とは ～新谷様の講演から～
- ・私にできる「学びをつなぐ」とは (講演から学んだこと・取り入れたいこと)
- ・全体交流

(2)グループ協議 B

- ・各市町の今年度事業実施状況や取組の重点等について
- ・事業の質的向上にむけての意見交流
- ・全体交流(グループAの発表に合流)



10 参加者のアンケートより

○先進的なお取組をされている地域の活動を聞かせていただいて刺激を受けました。学校に対して温かく熱意をもってつながろうとされている人材はたくさん居てくださるので、今回の研修内容を参考に進めていきたいと感じました。

○先進的とされる地域の実践においても、あくまで子どもが主体であり、大人が張り切りすぎていないかという目線が必要と認識されているところは大切であり、その認識のもと、いかに15歳までの間に何を身につけさせるかを考えておられるところは考えさせられるものであった。

○教師の異動があつて途切れてしまうことがないように、つながりを継続していく工夫もありました。学校と地域とがつながりを深めていけるように、学校運営協議会で熟議をしていけるように働きかけたいと思いました。

○「子どものためにやっている、子どもはどう思っているのか？」が響きました。大人の都合や、役所などではなくて、子どもを中心として今後も考えて活動していきたいと思います。

○とくに課題や上手く行かない点など、これからスタートしていく当市の制度設計につなげたい。

○地域で活躍する人を見つける、育てるためにも「価値づけ」がヒントになると感じます。また、無意識を意識化するという話もありました。学校との協議でも既に地域の方が精力的に活動してくれているという話も聞きます。そのあたり、活動の目的を明確化、共有していくことが地域学校協働において必要だと強く感じました。

○グループ協議では、市町の実態の違いを感じながらもアドバイザーの助言で、よい話し合いになりました。

○CSアドバイザーの方にガイドいただきながらのグループ協議で、子どもと大人が共に学んでいくことの醍醐味を垣間見ることができた気がしました。

○各市町の担当者の方で話せて、とても参考になりました。